

自己評価報告書

平成 23 年 5 月 18 日現在

機関番号：37302

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320097

研究課題名（和文）「シーボルトが紹介しようとした日本」の復元的研究

研究課題名（英文） Restored research of “Japan” that Siebold tried to introduce in Europe

研究代表者：宮坂 正英

（MIYASAKA MASAHIDE）

長崎純心大学・人文学部・教授

研究者番号：00269101

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：シーボルト シーボルト・コレクション 日欧文化交流史 日本展示
ブランデンシュタイン家文書

1. 研究計画の概要

本共同研究は、シーボルトに関する文書資料群としては最大の規模を持つブランデンシュタイン家の文書・記録・地図・絵画の調査により抽出された日本研究および日本外交に関する資料とミュンヘン国立民族学博物館、ライデン国立民族学博物館、ライデン大学図書館などに所蔵されているシーボルトの収集品や外交文書を結びつけ、シーボルトの日本研究の概要と日本博物館構想、さらには外交活動の実態を復元的に研究することを目的としている。

具体的な調査・研究のテーマは以下のとおりである。

- (1) 日本の産業調査の解明
- (2) シーボルトによる日本地図作成過程の解明
- (3) シーボルトの日本博物館の復元的研究
- (4) シーボルトの幕末外交への関与の実態解明

2. 研究の進捗状況

(1)に関してはブランデンシュタイン家文書中に残された「日本の穀物」と題した未刊草稿を解読し、この記述内容の情報源となる日本人の草稿を他の文書群から探す一方、記述と関連する穀物関係資料をライデン国立民族学博物館所蔵のシーボルト・コレクションと対象比較した。

また、ミュンヘン国立民族学博物館所蔵、ならびにブランデンシュタイン家所蔵の漆器コレクションの悉皆調査ならびに撮影を行っている。

(2)に関しては、ブランデンシュタイン家に所

蔵されている地図類、特に日本地図作成に使用されたと考えられる手書きの地図類の分類と撮影、更にはデータベース化を進めている。また、ライデン大学図書館およびミュンヘン国立民族学博物館に所蔵されている日本地図の調査と撮影も行っている。

(3)に関してはシーボルトがバイエルン王国政府に提出した「日本博物館」構想の建白書を解読し、いかなる構想のもとにヨーロッパで日本を紹介しようとしたのかを解明しつつある。また、ミュンヘン国立民族学博物館に所蔵されている第二回渡来時に収集した日本コレクションの展示構成を知ることができる目録を発見し、翻刻翻訳を行った。この調査結果をもとに、実際に収蔵品を並べ、シーボルトの日本展示がどのようなものであったかを明らかにするための試験的な復元展示を試みる準備を進めている。

(4)に関してはブランデンシュタイン家文書中に残されているシーボルトが第二次日本滞在中に幕府要人と交わした書簡を中心に調査、撮影を行っている。また、シーボルトの2人の息子たちアレクサンダーとハインリッヒの日本における外交、社会、文化活動に関する史料、特に膨大な数の未解読の書簡が発見されたため、この資料群の調査、撮影も行っている。

3. 現在までの達成度

(1)に関しては おおむね順調

原文テキストの翻刻、翻訳が8割程度完了し、関連資料の調査、撮影も7割程度終了している。

(2)に関しては おおむね順調
ブランデンシュタイン文書中の地図関係資料およびミュンヘン国立人類学博物館所蔵の地図の調査、撮影についてはほぼ完了し、ライデン大学図書館所蔵の地図に関しても約6割の資料調査、簡易撮影が完了している。

(3)に関しては おおむね順調
建白書の翻訳はほぼ完了し、収蔵品目録の翻刻も完了した。目録の翻訳ならびに所蔵品との照合、さらには日本展示の再現が目下の課題である。

(4)に関しては やや遅れている。
ブランデンシュタイン家文書に含まれる幕末外交文書の約2割程度の調査、撮影が終了し、アレクサダー、ハインリッヒ書簡に関しても2割程度の撮影が終わった段階にある。

4. 今後の研究の推進方策

対象資料の分量が膨大であり、人員、調査期間、予算のいずれも不足気味ではあるが、所期の目的である復元的研究の基礎となる史料ならびに情報はある程度獲得できた。したがってこの成果を踏まえ研究成果が広く活用できるようにするために報告書にまとめ、また調査の際に撮影した画像についても所蔵者の了解を得たうえでデータベース化し研究に供したいと考えている。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸「フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1828年、1830年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳」、シーボルト記念館『鳴滝紀要』、第18号、平成20年、29-62p.

宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸「フォン・ブランデンシュタイン家所蔵、1827年-1829年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳」、シーボルト記念館『鳴滝紀要』、第19号、平成21年、15-54p.

宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸「ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1826年、1830年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳(補遺1)」、シーボルト記念館『鳴滝紀要』、第20号、平成22年、29-62p.

宮坂正英、ベルント・ノイマン、石川光庸「ブランデンシュタイン家所蔵、1825年、1828

年、1830年シーボルト関係書簡の翻刻ならびに翻訳(補遺2)」、シーボルト記念館『鳴滝紀要』、第21号、平成23年、65-99p.

〔学会発表〕(計1件)

「ブランデンシュタイン家文書中のシーボルト関係書簡について」(ドイツ語)
第4回国際シーボルト・コレクション会議、2010年10月6日、ドイツ、ヴュルツブルク市.

〔図書〕(計1件)

宮坂正英「ブランデンシュタイン家資料に見られる小シーボルトの日本での活動」、J.クライナー編『小シーボルトと日本の考古学の黎明』、同成社、2011年、61-70p.